

養護教員として

二十六年



稻本ツネ

私は、昭和二十八年の冬、南会津郡田島町からバスで二十分钟の山あいの檜沢小学校に、養護教員として希望と期待をもち赴任しましたが、見知らぬ土地ではじめての教員生活をおくる不安は隠しきれませんでした。しかし、それを払しょくしてくれたのが、人々つこい児童と校長先生はじめとする先生がたの温かいまなざしでした。

また、土地に対する不安も地域の人々の心の温かさにとけていき、しだいに解消されていきました。三つの分校を含め二百八十五名の子供たちと、精一杯やつてみようと思意をかため、新任養護教員としてスタートしました。

児の怪我を治療し尽くす薬なく涙ながせし日遠くになりぬ
そのころは、まだ学校保健の内容も弱で保健室は宿直室といつしよでした。教室とは名ばかりで、けがで来室する子供に消毒もじゅうぶんしてやれなものでした。また、保健指導をするにも教材とするのに必要な資料が乏しく、日課となつたのは、女の子のしみ退治です。現在のように髪を洗うにもシャンプーなどない時代でしたし、不潔がしらみを殖やしていましたのでよく発疹チフスにからなるものだと、今でも不思議に思つるくらいです。



保健部の活動も楽しく

現任教校の下郷中学校は、下郷町にあつた三つの中学校が統合してできた学校で、昭和四十九年に新校舎が完成して以来勤務しています。現在の生徒数は四百七十七名ですが、統合当時は約七百名でした。最初は生徒や家庭環境それに地域の実態もよくわからなかつたので、とまどつたり、あせつたりして、慌ただしい毎日をおくりました。なれない遠距離通学による疲労が原因で、朝から「頭が痛い」「腹が痛い」といつて治療を受けに来る者、「昨日家で手を切った」「昨晩足を打った所が痛い」などいつて治療をさせがむ者もいてあわてたり、嘆いたりもしました。その後生徒たちは遠距離通学にもなれ、それに安全教育や保健指導も行き届きまた月一回「健康のしおり」を発行し

たと思つてい

費譲教員の年々増える嬉しさ上手をこり合って、鬼うを守らん

法の改正とは、こんなにもたいへんなものなのか。なんと長い月日を経たことだろう。なんとかして一校二名の養護教員の配置を願いながら今日までまいりました。そして今希望に満ちた若い人たちが同僚として年々採用されていることに心から喜びを感じています。心豊かな心身ともに健全な子供を育成するためには、なんといつてもしつかりした保健計画を樹立し、専門的知識をもつてあたる養護教員の必要性を強く感じるとともに、同僚の皆様といっしょにさらに研究改善を進めなくてはならないと思っています。明日こそ、来年こそと明るい希望をもちつゝ、養護教員としての使命を果たしたいと思ひます。

ひたすらに児らの健康祈りつつ
二十六年わが道を行く

(下郷町立下郷中学校養護教諭)